

## 社会教育部の取り組み 〈小郡市人権・同和教育研究協議会〉

社会教育部は、市内の広範な各組織・各団体のみならず、一市民としても参加することのできる部会です。部落差別をはじめとするさまざまな人権問題を正しく理解し、一人ひとりの人権意識を高め、人権問題の解決に向けて行動できる市民をめざして、全体研修会などの活動に取り組んでいます。

### 《全体研修会》

社会教育部では、2月16日、NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長の奥田知志さんを講師にお招きして、「ホームレスの回復」北九州におけるホームレス支援の現場」というテーマで研修会を開催しました。

研修会の冒頭で、北九州におけるホームレス自立支援活動の取り組みを紹介されました。私たちは、ホームレスの問題を単純に住む家のない人たちの問題ととらえます。そして、心のどこかに、そのことを自己責任ではないのか、奥田さんは自分自身の日々のホームレス支援の現実を通して、ホー

ムレスの問題は、単に仕事がない、住む家がない、保護が受けられないという物理的な困窮の問題だけではない。それはある意味、「ハウスレス」ということである。ホームとは、家族をはじめとする人と人とのつながりのことである。「ホームレス」とは、まさしくこの人のつながりの喪失である」と言われます。

個人的にはたとえ自己責任であつたとしても、社会的にはすべての人の基本的人権を保障するためのセーフティネットが存在するはずのこの社会において、なぜホームレスが生み出されていくのか。それは、この社会がそのような人々を生み出していく

社会だからではないでしょうか。ホームレスの問題は、日々、希薄化していく人と人の関係の問題であり、セーフティネットの弱いこの社会の問題である、ということ。

人と人の関係を失い、しかも「ハウスレス」となったとき、そこに社会のセーフティネットが機能しなければホームレスの人が生まれず。しかし、私たちのまわりを見わたした時、家はあるけれどもすでに人と人の関係を失っているということがないでしょうか。学級の中で孤立している子ども、家族からも見放され深夜まで徘徊している少年少女たち、地域社会の中で孤立し、誰にも子育ての悩みを相談できない家庭、一人暮らしで孤独死を迎える高齢者、この社会の中にホームを失っている人がすでに、数多く存在しているのです。

市同研では、今回初めてホームレスの問題を取り上げたのですが、そこで見えてきたものは、まさしく私たちの身の回りの人権状況でした。今こそ、私たちは、人権を大切にするという視点から、人と人との豊かな関係を紡ぎだし、真に一人ひとりの人権が尊重される、

地域社会の構築に向けて取り組んでいくことの大切さを考えさせられる研修会でした。



講師 奥田知志さん

全体研修会の参加者の感想より  
今日の研修で、ホームレスの問題が自分のこと、自分の生き方と社会が抱えている大きな問題と関係があることがわかりました。私も自分の力を何かのために役立てることができるようになりたいです。

「セーフティネット」…経済的な危機に陥っても、最低限の安全を保障してくれる、社会的な制度や対策。